

## ■クリティカルパス委員会

### 1. 2021 年度の目標および方針

本委員会の活動により目指すものは以下の 3 点である。

1. 医療の質と安全性の向上
2. チーム医療の推進
3. 診療プロセスの効率化

新カルテシステムが 2019 年度に実施され、本格的な運用が開始されている。新カルテでは、パスの編集や改訂が容易となっている。また、データ収集も可能となっており、実績に基づくパス改訂も可能な仕様である。今後、パスの登録件数を増やし、診療現場での普及を進める。そして、JCI 審査にも対応できるよう、データの蓄積を継続する。

### 2. 2020 年度評価

新カルテである CIS+ のパス関連データを POWER BI にて収集・解析するシステムのアップデートを行った。これにより、主な診療科・疾患のパス適応率などが測定できることとなった。

### 3. クリティカルパス委員会の活動内容

#### 1) クリティカルパスにより目指すもの

クリティカルパスは疾患や治療ごとに、最適と考えられる診療プロセスや到達目標を設定し、視覚化するものである。これにより提供される医療の質を標準化することができる。そしてパスの実績を分析してパスの改訂を行うことにより、さらに医療の質の向上を進めることが可能となる。

さらにパスの使用により医療従事者間で診療フローや目標が共有化することが容易となる。これにより情報共有が容易となり、評価項目や手順を明確とすることができ、医療従事者の負担軽減やエラーの減少が期待できる。チーム医療の推進のためにも有効なツールとなる。

診療フローが標準化されることで蓄積される治療データの質の向上も期待できる。今後はデータ収集、出力を容易にすることで臨床研究の支援や、エビデンスに基づいた診療フローの改善を推進することのできるシステム構築を進めたい。

#### 2) 委員会

委員会は 2 か月に 1 回程度開催される。委員会ではパスの質の改善と普及ための戦略を検討する。

実際のパス作成は、診療科ごとに IT 担当者をおき、作成の委託をしている。パス委員会では作成されたパスの実績確認と、新規に開発するべきパスの選定、パス作成のための協力委員の構成、作成されたパスの承認作業を行う。

#### 3) 委員

委員会は宮越浩一（委員長）、他 6 名の委員より構成される。

文責：宮越浩一